

中国南部における地域発展戦略の施行の現場を歩く —三亜・海口・北海・南寧・広州視察報告—

ERINA 調査研究部研究員 穆堯芋

中国における地域発展戦略は、近年、新しい展開を見せている。中央政府は2000年代後半から現在まで、計20件近くの省レベルの地域発展戦略を承認した。例えば、吉林省の「中国図們江地域協力開発規画要綱」、遼寧省の「遼寧沿海経済帯発展規画」、山東省の「黄河デルタ高効生態経済区発展規画」などが挙げられる。既存の中央主導の「西部大開発」や「東北振興」と対比すると、これらの新しい地域発展戦略には、地方政府が主導的な役割を果たしており、地域の経済的特性を生かした新しい政策が試みられている。

筆者はこれまで東北地域の発展戦略を研究してきたが、今回は他地区の発展戦略との比較の視点を得るため、2012年4月、海南省（三亜市、海口市）、広西チワン族自治区（北海市、南寧市）と広東省（広州市）を訪ね、中国南部の地域発展戦略を調査した（図）。海南省には「海南島国際観光島規画要綱」という地域発展戦略があり、観光業の振興

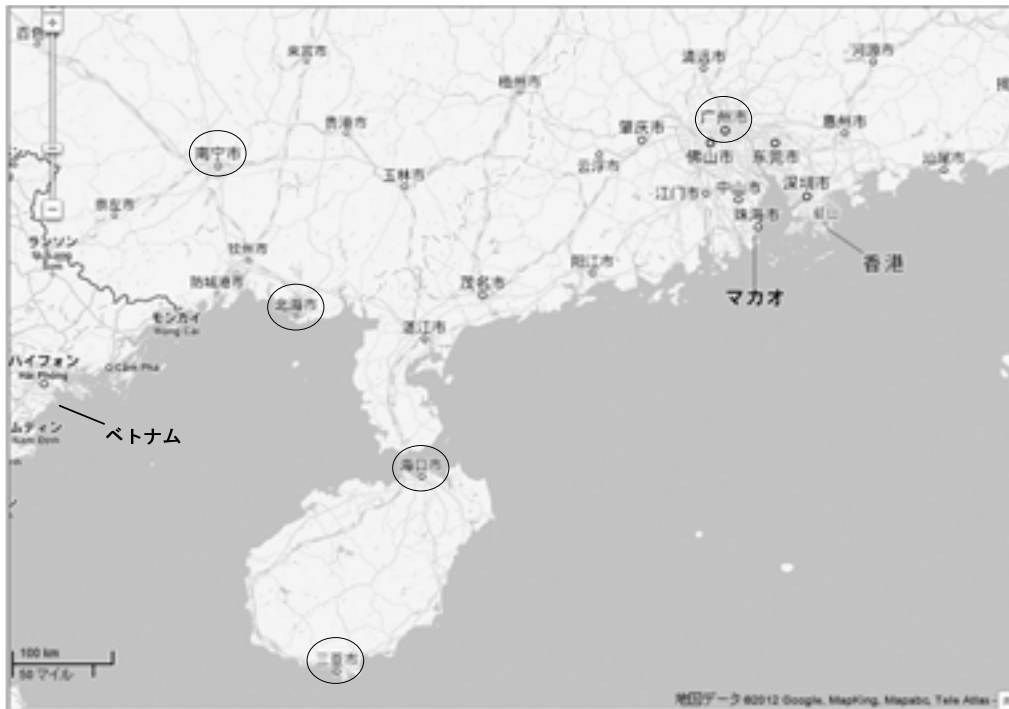
に力を入れている。広西チワン族自治区には「広西北部湾経済区発展規画」があり、東南アジア諸国連合（ASEAN）との経済協力を積極的に推し進めている。広東省には「珠江デルタ地区改革發展規画要綱」、「海峡西岸経済区発展規画」、「広東海洋経済総合試験区発展規画」の3つの地域発展戦略があり、産業構造の改善、台湾との経済交流の推進と海洋関連産業の振興を図っている。いずれも中央政府認可の地域発展戦略で、マスコミに「国家戦略」として報道されているが、戦略を実行するための財源や組織などは主に地方政府に依存している¹。今回は訪問した3省・自治区での視察の概要を報告する。

1. 国際観光を推進する海南省

海南省は中国の最南端にあり、熱帯地域に位置する中国唯一の省である。人口は867万人（2010年現在）、うち漢族は83%、少数民族は17%を占める（リー族が最も多い）。

¹ 詳細は穆堯芋「中国における地域発展戦略の実態と課題－中国図們江地域協力開発規画要綱の事例－」『ERINA REPORT』No.103 2012年1月 pp.38-51 を参照されたい。

図 三亜市、海口市、北海市、南寧市、広州市の位置図



出所：©2012 Google, MapKing, Mapabcより作成

陸地面積は3.54万平方キロメートル、日本の北東北三県（青森、秋田、岩手）の合計に相当する。中国では陸地面積が最も小さい省だが、暖かい気候と豊かな民族文化に恵まれ、著名な観光地である。

海南省は、1988年に広東省から独立し、省に昇格した。これと同時に中央政府に経済特区として指定され、深圳、珠海、汕頭、アモイに次ぐ5番目の経済特区になった。海南省はかつて広東省に学び、外資誘致や加工貿易の発展を通じて経済成長を促す政策を取っていたが、外資企業の進出は思う通りに進まなかった。近年、中国における消費レベルの向上や観光客数の拡大により、農業や島内観光を振興する政策が採用され、中国の有名リゾート地に成長している。2010年6月、中央政府は「海南島国際観光島規画要綱」を承認し、海南島の観光振興と地域開発を国家レベルで支援することを明確にした。今回の視察では観光都市の三亜市と省都の海口市を訪ねた。

(1) 三亜市

三亜市は中国最南端の観光都市で、戸籍登録人口は58万人（2011年現在）、面積は1,919平方キロメートルである。三亜市に2日間滞在したが、観光都市としての魅力と不動産価格の高騰ぶりに驚いた。街には果物を販売する店があちこちにあり、大陸地域では見かけないものもたくさんあった。宿泊したホテルは高級ではなかったが、無料のフルー

ツ（新鮮なマンゴー）を毎日部屋に入れてくれた。道路の両側には椰子の木が多く、ゆったりした雰囲気の中で人々が歩いていた。しかしながら、不動産物件の価格を見ると、価格が1平方メートルあたり3万元から4万元前後のマンション物件が並び、大都市の北京、上海よりも高いと感じた。地元の人に聞くと、人工島の鳳凰島に立地する超高級物件（写真1）は、1平方メートルあたり16万元に達したこともあるという。三亜市の新卒の給料は2千元以下と言われているため、それを買える地元住民は極めて少ない。

三亜市は「海南島国際観光島規画要綱」を実行する重要な拠点都市であり、観光業の振興に力を入れている。例えば、観光客を誘致するために、中央政府と大手国有企業の支援を得て、市内に免税店（写真2）を設置した。外国人観光客のみならず、中国大陸からの観光客に対しても免税措置が講じられている。大陸から来た観光客は免税店内で商品を決めて支払いを済ませ、海南島を離れるときに空港で商品を受け取る方式である。購入金額や回数について制限があるものの、三亜市を訪れる観光客の人気スポットとなっている。また、港などを整備して国際ヨットレースを誘致する計画も進められている。

(2) 海口市

海口市は海南省の省都で、人口は184万人（2008年現在）である。三亜市から海口市までは約2時間、中国版新幹線

写真1 三亜市の鳳凰島に立地する超高級物件



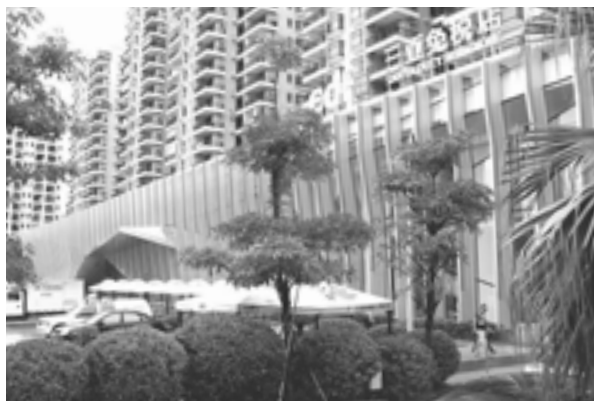
筆者撮影

写真3 海南省規画展覽館



筆者撮影

写真2 三亜市内の免税店



筆者撮影

写真4 北海港に停泊している漁船



筆者撮影

の「動車組」で結ばれている。海口市では海南省政府などを訪問した。

海南省政府は「海南島国際観光島規画要綱」に認められた「先行先試」(先に行い、先に試みる)策を利用し、全国に先だって観光業の振興策を試みている。例えば、国際医療観光モデル地域の整備、入国ビザの免除対象国の拡大、観光客向け免税措置の拡大、衛星発射基地の誘致に伴う宇宙テーマパークの整備、スポーツくじや大型国際スポーツイベントくじの発行などが挙げられる。地方主導の地域発展戦略の実行にあたり、地方政府と中央政府の交渉により、地域の特性を生かした発展方式が構築可能であると感じた。

海南省政府の隣の海南省規画展覽館(写真3)には、「海南島国際観光島規画要綱」の目標や内容などを紹介している。入場無料であるが、中での写真撮影は禁止されている。2時間をかけて細部まで見たが、国際観光の最先端に走る政府の施策は地元の人々の生活レベルの向上につながるかどうかについて、疑問であった。

2. ASEANとの経済協力を推進する広西チワン族自治区

広西チワン族自治区はベトナムと国境を接し、防城港・

欽州・北海などの港も有する。人口は5,199万人(2011年現在)、うち少数民族(チワン族中心)は3割以上を占める。広西チワン族自治区は、外資誘致を経済成長に結び付く主要な政策として長く実施していたが、現在はASEANとの経済協力の推進に全力を挙げている。2008年、「広西北部湾经济区發展規画」は中央政府に承認され、第11次5カ年規画期間中に入ってから最初に認められた地域發展戦略であった。対象地域は「南北欽防」(南寧市、北海市、欽州市、防城港市)とされ、ASEAN諸国との経済連携を重要な政策目標として掲げている。

(1) 北海市

海口市から北海市までは、フェリーで移動した。乗客が多く、喧騒と海風、海産物などの匂いの中で一晩中を過ごした。朝に北海港に着くと、漁船がたくさん並んでいるのを見た(写真4)。広西チワン族自治区政府は2007年に北海港、欽州港、防城港を合併し、新たに広西北部湾国際港務集団有限公司としてスタートさせている。新会社は中国サービス業トップ企業500社に入っているとされているが、北海港の状況を見てもそのような実感はなかった。

写真5 北海市内の新築住宅団地



筆者撮影

写真7 開発が急に進む南寧市内



筆者撮影

写真6 建設中の北海—南寧高速鉄道



筆者撮影

写真8 南寧市内にあるミャンマービジネス連絡拠点



筆者撮影

北海市の政府関係者の話には、ASEANとの経済協力を推進することで北海市の経済が大きく成長するかどうかについて、異なる意見があった。北海市にとって、ASEANと協力するより、省内の他の都市と協力したほうがより効果的だと主張する意見があった。例えば、省内の物流インフラの整備や共同市場の育成などが挙げられた。また、中央政府が「広西北部湾経済区発展計画」を承認したのは、同戦略には経済的な意味も重要であるが、国際政治的な意味合いも含まれていると指摘された。

北海市では、近年に不動産価格の上昇が始まり、住宅団地は次々に建設されている。しかしながら、購入者の中には実際に住むのではなく、価格の上昇を待って転売する人が多いと指摘された。車で市内を走ってみると、新築住宅団地の正面玄関に人影はなく、周りに生活用品などを販売する店もないことから、実際に住んでいないことがわかった（写真5）。実需に伴わない投機的な取引は、不動産価格が下落した時に、買い主に大きな損失を与えるほか、地域経済にも影響を及ぼす恐れがある。

(2) 南寧市

南寧市は広西チワン族自治区の省都で、人口は666万人（2010年現在）、うちチワン族は5割以上を占める。「広西北部湾経済区発展計画」の中心都市として、近年に急速に開発が進んでいる。北海市から南寧市まで列車で移動したが、途中、建設中の高速鉄道の工事現場を見た（写真6）。高速鉄道は2012年末に開通する予定で、所要時間はいまの3時間から1時間に短縮するという。ゆったりと車窓からの風景を楽しんでいた筆者にとって、狭くて混雑した高速列車の旅を思い出すと、寂しい気持ちになった。

南寧市を訪ねてもっとも印象深かったのは、市内の驚異的な発展のスピードとASEANとの協力の推進における地方政府の決意であった。中国人の意識の中で、広西チワン族自治区は、長い間貧困撲滅の対象として全国から支援を受けてきたとの印象がある。しかし、市内を走り回ると、高層ビルが林立し、特に東部に位置する新区（新たに開発された市街地）では、新しいオフィスビルや不動産物件などがずらりと並び、道路も広々としており、極めて現代的な雰囲気であった（写真7）。

現地政府を訪ねて、ASEANとの経済連携は地域経済発

写真9 高層ビルが立ち並ぶ広州市内



筆者撮影

展の原動力になり得るかと質問したところ、肯定的な答えがかえってきた。広西チワン族自治区も試行錯誤を繰り返してきたが、いまの道は正しいと言われた。調査を通して実感したが、省政府はその認識の下で、全力を挙げて取り組んでいる。例えば、巨額な資金を投じて北部湾投資集団有限会社を設立したり、中央政府の許可を取り付けて北部湾銀行を設立したりして、ASEANとの経済連携を促進するためのインフラ整備や資金調達を行っている。中国－ASEAN博覧会を毎年開催しているほか、ASEAN諸国のビジネス連絡拠点の設立（写真8）や領事館誘致も取り組んでいる。徐々に成果が出始めているという。広西チワン族自治区政府は、中央に承認された地域発展戦略の実行が地域経済に大きなプラスの影響を与えると判断し、精力的に推進している。しかし、筆者のこれまでの調査から、このような状況はすべての地域発展戦略に当てはまるとは言いがたいと感じた。

3. 地域の一体化を推し進める広東省

筆者は、南寧から飛行機に乗り、1時間で広東省広州市（写真9）に着いた。タクシーの運転手は静かに車を降り、私の大きな荷物をトランクに入れてくれた。走行中に国の政治話や生活苦の文句などもなく、「暑ければクーラーをつけます」と聞いて、終始運転に集中していた。国の政治や政策等に関心を払わず、黙々と自分の仕事を全うする広東人の印象が強かった。

その印象は、広東省における地域発展戦略にも反映されていると後に思った。広東省では3つの中央認可の地域発展戦略があるが、地元の専門家はそれを自慢にして外部の人に見せようとしなかった。全国における広東省の経済的地位は確立しており、地域発展戦略のような「名刺」は必要としないのであろう。また、市場経済が進んでいるため、市場のルールで動いている部分が多く、政府の役割は限定的であると考えられる。

海南省の国際観光の推進や広西チワン族自治区のASEANとの経済連携の促進等と対比すると、地域発展戦略における広東省政府の施策は、外部経済ではなく、域内経済の構造調整と都市間の一体化の推進にあると思われる。付加価値の低い産業を徐々に移転するほか、広仏肇（広州市、仏山市、肇慶市）、深莞惠（深圳市、東莞市、惠州市）、珠中江（珠海市、中山市、江門市）の3大経済圏の構築に取り組んでいる。具体的には、広州市、深圳市、珠海市の3大中心都市を重点に、都市間交通システムを整備し、地域間の産業協力を促している。広東省の政策の重点は、外部経済との連携の強化より、内部の構造調整にあると考えられる。